

# ねだんをくらべて、買えるか買えないかを式に表そう

単 元	計算のじゅんじょ	対象学年	2 年
ね ら い	数量の相当関係や大小関係を、等号や不等号を使って式に表すことができる。		

## 1 準備するもの

教師： 黒板掲示用に拡大した紙

(えんぴつ 70) (けしゴム 90) (もっているお金 150) (けしゴムとえんぴつ  $90+70$ )

## 2 学習のしかた

(1) 場面把握をする。

- ・ 文房具の値段を把握しやすくするためにイラストを提示し、そのうち2つを選んで値段を答えさせる。

(2) 本時の学習課題を把握する。

ねだんをくらべて、買えるか買えないかを式に表そう

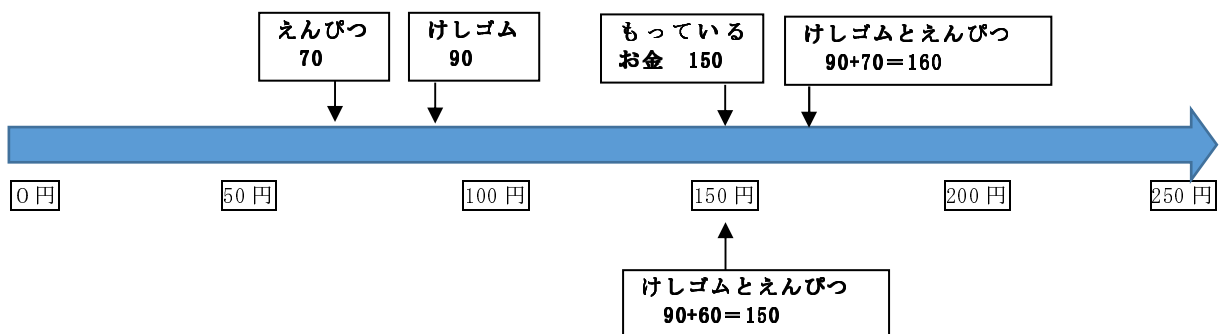
(3) 次の問題に取り組む。

㊦ 150円で90円のけしゴムと70円のえんぴつが買えますか。  
 ㊧ 150円で90円のけしゴムと60円のえんぴつが買えますか。  
 50円のえんぴつはどうですか。

$90+70=160$  で、150は160より小さいから買えません。

(4) 数量関係を把握するために、数直線を提示し、㊦、㊧の場合がどこになるか貼って比べる。

※ ↓をつけて、数直線上のどのあたりにあるか見やすくなるように工夫する。



(5) えんぴつ 70 と、持っているお金 150 を比べ、

- ① 70 と 150 をくらべると 150 が右にある。
- ② もっている 150 円の方が多い。
- ③ えんぴつ 70 円は 150 円で買える。
- ④ 「 $70 < 150$ 」と表せることを知る。

(6) 60 円のえんぴつ、50 円のえんぴつも同様に考える。

(7) ④の「等しい」とときには、 $=$ を使うことをおさえる。

- ・ 大小関係がわからない児童には数直線を提示して比べさせる。
- ・  $150 < 90 + 70$  は、「150 は  $90 + 70$  より小さい」という表し方をおさえる。

(8) 教科書やプリントの類題を解く。

### 3 学習上の留意点

- ・ 不等号、等号の意味を理解した後で使い方をおさえるために、 $30 \square 50$  のように 2 つの数字を提示し、大小関係を表す練習を繰り返す。
- ・ 不等号で表すときに、体を使って右、左に腕を開く動作を入れて練習すると楽しく学習できる。
- ・ 不等号の理解の際、 $<$ 、 $>$ を口に見立てて、「大きい方が好きだから大きい方に口を開く」と説明すると、理解が早い。

### 4 学習の効果

- ・ 数直線を用いて数を視覚化することで、数量の相当関係や大小関係を把握し、等号や不等号を使って式に表すことができる。

### 5 参考資料

#### 数直線に貼るカード

えんぴつ 70	けしゴム 90	もっているお金 150	けしゴムとえんぴつ $90 + 70 = 160$	けしゴムとえんぴつ $90 + 60 = 150$
------------	------------	----------------	------------------------------	------------------------------